

『被爆者からのメッセージ』普及と活用をお願い

2015年2月

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）
ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

広島・長崎への原爆投下から70年を迎えました。あの原爆地獄を生きのびた被爆者は「自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おう」と誓いあって日本被団協を結成しました（1956年）。残された時間が少なくなった今なお、被爆者たちはその気持ちを胸に、「ふたたび被爆者をつくるな」と国の内外に訴え続けています。

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、被爆者の死と生、運動を記憶遺産として受け継ぐことを目的に、ノーモア・ヒバクシャのこころを共有する人びとによって結成（2011年）、その活動の一環として、「被爆者の話を聞き取る会」を積み重ねてきました。

本冊子「被爆者からのメッセージ」は、被爆者が語った体験や思いを、若い世代が聞き取って書き起こす共同作業で作りました。小さな冊子ですが、被爆者とその思いを受け継ごうとする人びとの共通の願いが込められています。4～5月に開かれる核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議には、日本被団協の代表団がこの英訳版を持参し、そのこえと願いを国連や世界の人々に届けます。

被爆70年の諸行動を計画し、NPT再検討会議に代表を派遣する団体、グループのみなさん、ぜひ、この「被爆者からのメッセージ」を普及・活用しながら、ともにノーモア・ヒバクシャの願いを広げてくださるようお願いいたします。

1. ヒロシマ・ナガサキを体験し、生き抜いてきた被爆者が全国に19万人余りいます。それぞれの地域、身近なところで被爆者の証言に耳を傾け、「メッセージ」を読み、被爆者と受け継ぎ手で感想や思い、自分たちに何ができるかを語り合う機会を設けてください。
2. NPT再検討会議に派遣される代表のみなさんの事前学習の場や、代表を送り出す歓送会の場などで、被爆者の証言を聞き、「メッセージ」を読み、語り合う機会を設けてください。
3. いまだにアメリカの核抑止力にしがみついた「被爆国」政府の姿勢を変えさせることは、何よりも大切な私たちの課題です。そのための国民世論づくりも必要です。NPT再検討会議に参加するための諸行動の中で、「メッセージ」を普及・活用し、地域の被爆者や仲間の願いを発信してください。
4. NPT再検討会議やニューヨークにおける国際交流の場に英語版「メッセージ」を持参し、活用してください。

※この冊子は日本被団協、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会のホームページから自由にダウンロードすることができます。英語版は4月からダウンロードできるように準備を進めています。この冊子が必要な方には頒価200円+送料でお送りいたします。お申し込みは、注文票を継承する会の事務局まで。